

あなたの事業所は大丈夫ですか？

火災事例から

予防部予防課(調査鑑識)

**ストーブの季節がやってきました！
火災に注意して下さい。**

1 はじめに

11月に入り、霜月の名の通り冬の訪れを感じる寒い日が続いています。寒さが厳しくなってくると暖房が恋しくなってきましたね。みなさんのご家庭でもそろそろ暖房器具が活躍し始めているのではないのでしょうか。最近では、エアコンで暖をとる家庭も増えてきていることとは思いますが、まだまだストーブを利用している家庭も少なくありません。これから冬の時期にかけて、ストーブの火災が増えてきます。

ストーブは家庭では主にガストーブ、石油ストーブ、電気ストーブが使用されています。ガストーブや石油ストーブは燃料にガスや灯油を使用するため火災が起こりやすいイメージがあり、使用する人々の

危機意識も高くなります。

一方、電気ストーブはどうでしょうか。コンセントにつなぐだけでなく使える電気ストーブは、石油ストーブのように燃料の補給もなく、ガストーブのような特別な設備も必要ないため、他の暖房器具に比べ手軽に利用できます。直接火が出ないため安心して使っている人も少なくないと思います。

しかし、実際に火災に至るケースは電気ストーブが圧倒的に多くなっています。燃焼部分が露出していないファンヒーターやセラミックヒーター、オイルヒーターなどでもコンセント部分やコード部分から出火するケースが多くみられます。

それでは、ストーブ火災の事例を紹介していきましょう。



2 火災事例

事例1

ア 概要

鉄筋コンクリート造17階建共同住宅の14階において居室の天井側壁が5㎡焼損した火災です。

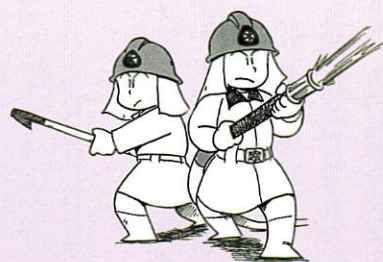
この火災で負傷者が1名発生しています。

イ 発生状況

この住宅には60代の男性が一人で暮らしていました。就寝中に熱気を感じて目覚めたところ壁に掛けていた服が燃えていました。男性は慌てて消そうとして手足に火傷を負ってしまいました。

ウ 調査結果

男性は、電気ストーブで洗濯物を乾かしながら就寝してしまっていたようです。そして何らかの原因で洗濯物が、電気ストーブの上に落下し出火に至ったようです。最初に燃えた衣服の火が壁に掛けてあった別の衣服に燃え移りさらに火災が広がりました。幸い早期に気づいたので怪我の程度も軽傷で済みましたが一歩間違えると命に関わっていたかもしれせん。



事例2

ア 概要

木造瓦ぶき2階建住宅の1階リビングから出火し、1、2階30㎡焼損した火災です。

負傷者は発生していません。

イ 発生状況

石油ストーブを使用中に火災が発生しました。家人が給油した際に引火したようです。

ウ 調査結果

家人が給油したカートリッジタンクをストーブに戻そうとしたところ、タンクの蓋がはずれ、点火したままのストーブの本体に灯油がこぼれて引火し出火したようです。

石油ストーブに灯油をこぼすとこぼれた油に引火し急激に燃焼し



事例3

ア 概要

木造瓦ぶき3階建住宅において、3階1室が若干焼損した火災です。負傷者は発生していません。

イ 発生状況

家人が在宅中に起こった火災です。来客が来たので玄関で話し込んでいたときに住宅用火災警報

器が鳴り火災に気づいたので、すぐに消火することができたようです。

ウ 調査結果

こちらの家ではペット小型犬を数匹飼っていました。家人が話し込んでいたうちに飼っていた小型犬が3階の居間のソファア上にあったタオルケットをひっぱったため、近くにあった電気ストーブに接触し出火に至ったと思われます。家人も電気ストーブの周りには燃えるものを置かないように気を付けていたようですが、犬の行動により火災に至ると思ってもよらなかったようです。幸い住宅用火災警報器がある部屋だったのですぐに気づいて消火できましたが、住宅用火災警報器がなかったら被害はもっと拡大していたかもしれません。

エアゾール製品などのスプレー缶やカセットコンロ用ボンベをストーブの近くに置いたままにして爆発し、火災に至ってしまう例もあります。またストーブの周囲に燃えやすいものを置かないようにしてください。

当たり前のことですが、ついやってしまいがちなのでご注意ください。



3 おわりに

冬を快適に過ごすためには、ストーブは必要不可欠です。ストーブ火災は、紹介した事例のように様々な原因で起こっていますが、その原因の多くは機器の不具合等の問題ではなく、使用者側の不注意や不適切な取り扱いとなっています。火災を起さないようにするために次のようなことに気を付ける必要があります。

○寝具・衣類などの可燃物の近くで使用しない。

○ストーブの周囲は整理整頓を心がける。

○就寝時や外出時には必ず火を消す。

○石油ストーブ等のカートリッジタンクの口金は、確実に閉まっていることを確認してからセッとする。

○使用しないときは電源プラグをコンセントから抜いておく。電源プラグやコンセントの清掃点検をする。

○エアゾール製品をストーブの上やそばに置かない。

これからの季節は空気が乾燥し火災が発生しやすくなりますので、ストーブ等暖房器具の注意事項を再確認し火災を防ぎましょう。

